

# 表1 国内アカリンダニ症発生数>

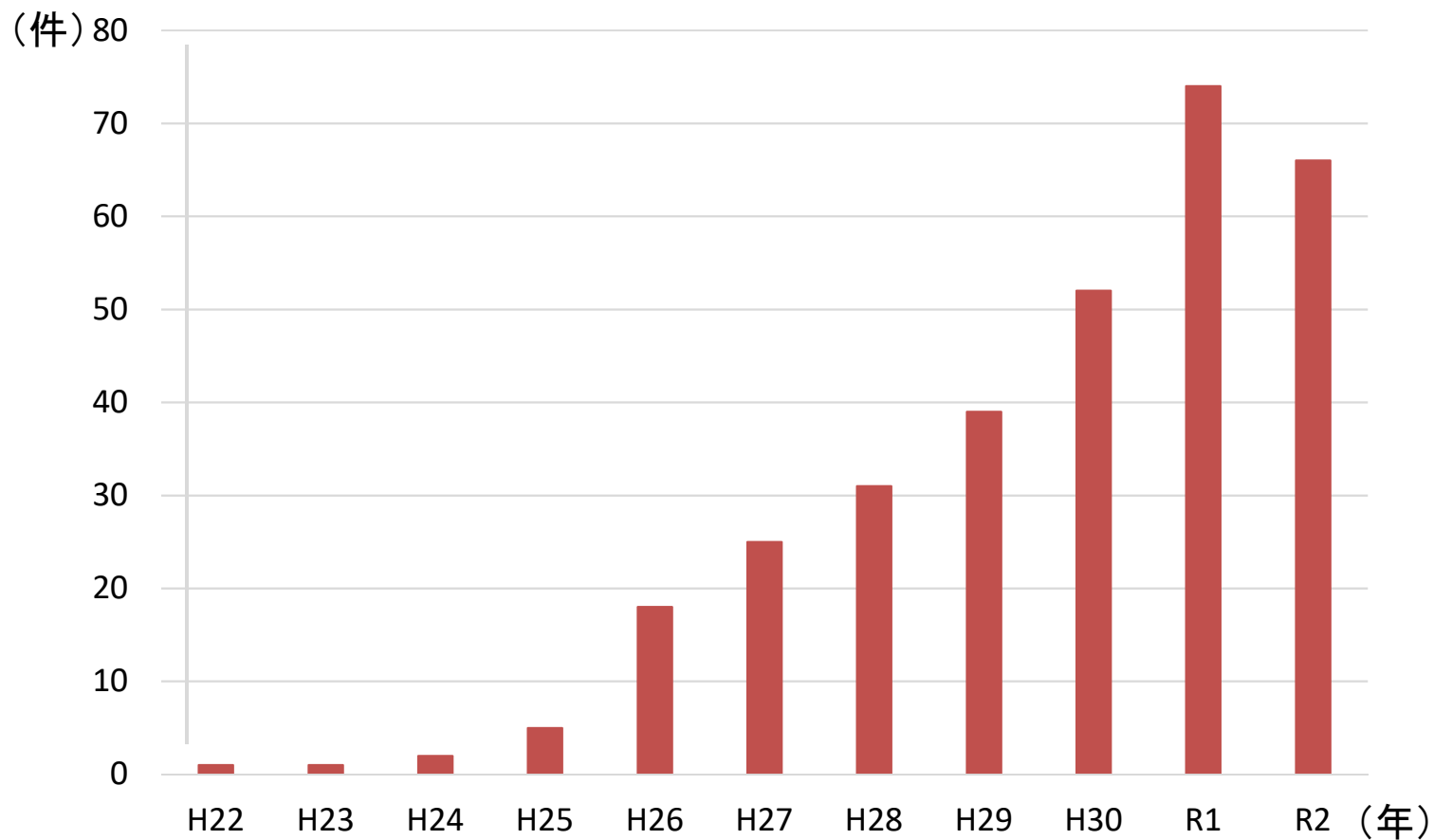




图1 巢箱·个体採取

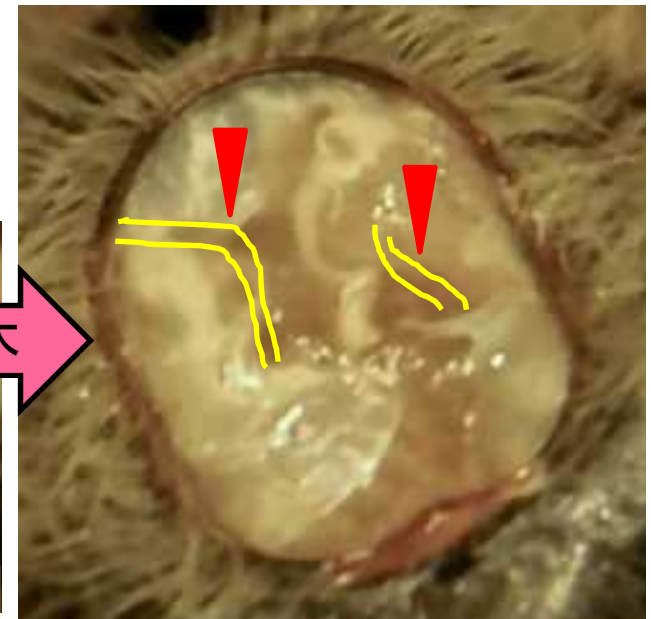
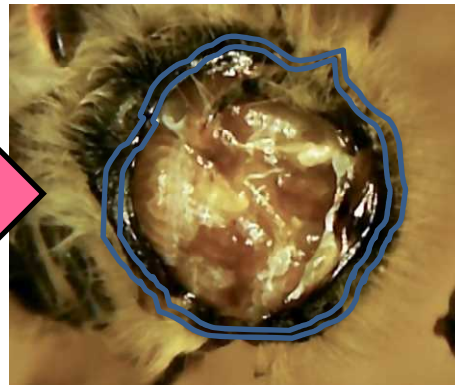
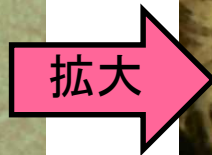
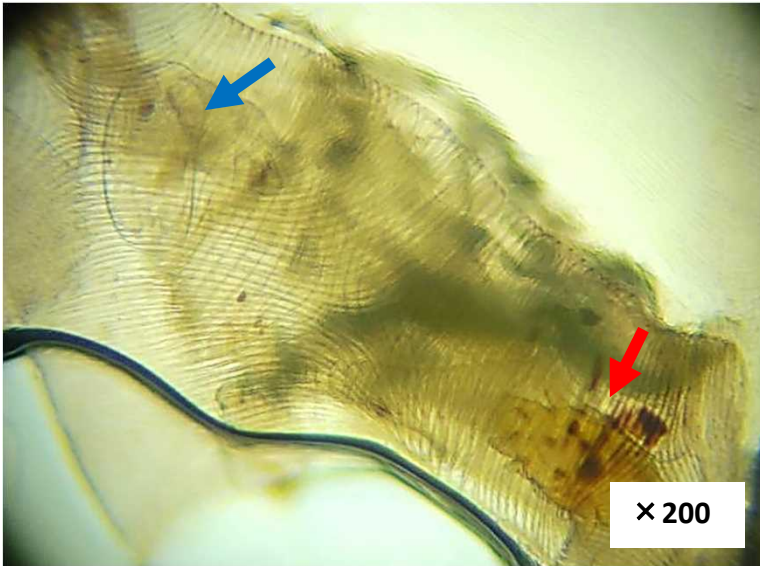
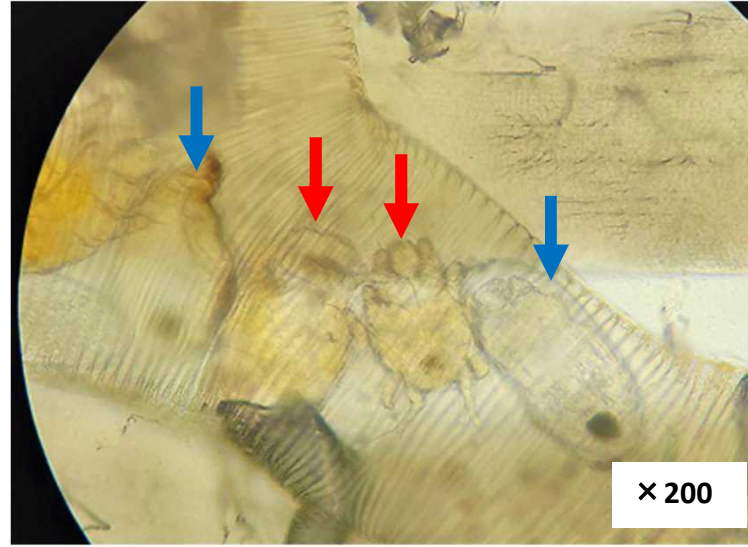
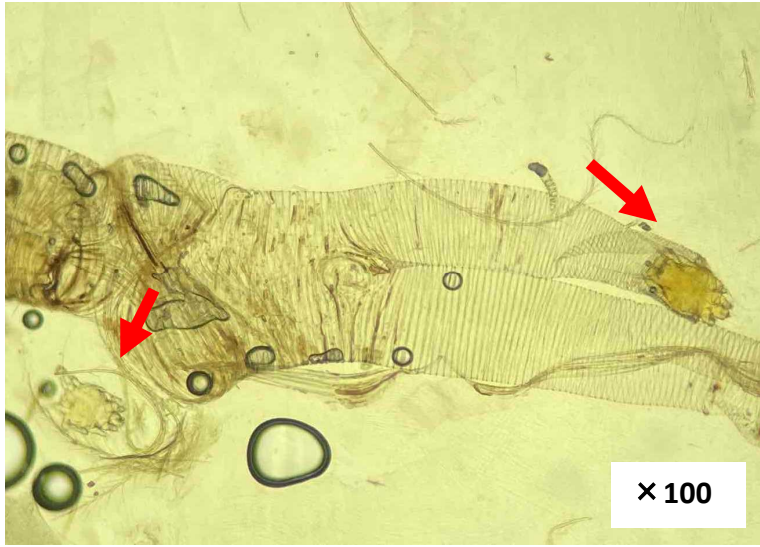


図2 ミツバチの解剖手順





← 成虫 ← 虫卵

図3 アカリンダニ成虫及び虫卵(鏡検画像)

## 表2 聞き取り及び検査結果

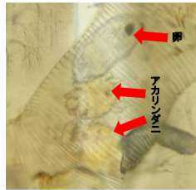
農家	症状	検体数 (匹)	陽性数 (匹)	感染率 (%)
A	蜂群の崩壊	20	1	5
B	蜂群の崩壊 下痢	21	20	95
C	蜂群の弱体化	10	0	0
D	蜂群の弱体化	26	0	0
E	蜂群の弱体化	21	0	0
F	蜂群の弱体化	9	0	0

## 家畜衛生だより号外 令和3年6月25日

紀北家畜保健衛生所 電話 073-462-0500  
紀南家畜保健衛生所 電話 0739-47-0974  
紀南家畜保健衛生所 東牟婁支所 電話 0735-58-1481

### 日本ミツバチにおけるアカリダニ症 (届出伝染病)の発生について

田辺市内で日本ミツバチを飼養している2農家において、採取した日本ミツバチの気管からアカリダニの寄生が確認されました。  
本県でのアカリダニ症の発生は、初めてになります。



気管内に寄生したアカリダニ

アカリダニ症は蜜蜂の病気で、2010年、長野県にて日本ミツバチでの発生が報告されて以降、全国的に感染が拡大し、近畿地方でも各府県で発生が報告されています。



発りつぶし、これまでに発生があった都府県

この病気は人へは感染しませんが、感染したミツバチから巣内のミツバチに次々感染し、特に秋から冬にかけて蜂群の弱体化や崩壊、巣の放棄等が見られます。また、巣の周りで徘徊するミツバチが見られるのが特徴です。

一旦感染してしまうと、根絶は難しく、完治はできません。

この病気に対する治療薬はありませんが、ミツバチ間での感染拡大を予防するために以下の方法があります。

- ① 感染拡大を防ぐために、アカリダニに感染した蜂群からの分蜂や、他人への譲渡はやめましょう。
- ② ミツバチがいなくなった巣箱は洗浄・乾燥・火炎消毒等を数回繰り返し、次年の分蜂で新しいミツバチを入れるようにしましょう
- ③ 海外の論文より、以下のものをセイヨウミツバチに与えたところ効果が認められたという報告があります。  
あくまでセイヨウミツバチでの報告です。日本ミツバチへの効果が確認されたわけではありません。

ショートニング2に対し砂糖1を混ぜたものを与える

注) そのまま与えるとミツバチがくっついてしまうので、蒸籠等に包んで与えるようにして下さい

日頃からミツバチの様子をよく観察し、衛生管理、飼養環境に気を付けるようにしてください。飼養するミツバチに異常が見られた場合は、速やかに家畜保健衛生所まで連絡をお願いします。

また、ミツバチを飼養する方は、「養蜂振興法」第3条に基づき、毎年1月に飼育届を管轄振興局（窓口：農業水産振興課）に提出することが義務付けられています。この届出は、原則、ミツバチ（セイヨウミツバチ、日本ミツバチ）を飼養している全ての方が対象になりますので、必ず届出をお願いします。

※気になることや不明な点がありましたら所轄の家畜保健衛生所にお問い合わせください。

## 図4 養蜂農家への周知文